

高等学校「理科」におけるルーブリックを用いた評価について

パフォーマンス課題に取り組む場合、生徒は既習の知識を生かして新たな課題に挑戦することになります。その際、事前に生徒にこの課題の達成目標（教師側から見れば評価の判断の基準）を明確に示す必要があります。つまり、この課題に取り組むときの評価のポイントと達成度を明確にしておく必要があります。これを分かりやすく一覧にした表のことを「ルーブリック」と呼びます。

ルーブリックを用いた評価の利点は、生徒が観察・実験の中で示したパフォーマンスの質をねらいに即して具体的に捉えるとともに、生徒に分かりやすい形でフィードバックできることです。「望ましい結果が得られた」「得られなかった」という単純な判定をするのではなく、「何がどのようにできたから、このような評価になったのか」を生徒と共有することで、生徒の学習意欲の向上を図ります。

ルーブリックを用いた評価を通して、観察・実験の技能や実験結果の考察力など、ペーパーテストだけでは測ることが難しかった生徒の「見えにくい学力」を確認するとともに、評価結果から生徒の理解不十分な学習内容を把握し、教員の指導の改善につなげることができます（「指導と評価の一体化」）。

初めてルーブリックを用いた評価に取り組むときは、どのようにルーブリックを作成したらよいのか分からなかったり、評価項目を設定しても生徒のパフォーマンスの様子を受けその内容を大幅に改訂しなければならなくなったりするなど、苦勞します。しかし、幾度かパフォーマンス課題を用いた授業に取り組んでいく間に、徐々に生徒の実態を的確に捉えたルーブリックを作成できるようになります。

このウェブページでは、指導事例として掲載した全てのパフォーマンス課題に対応したルーブリックの例を示していますので、参考にしてください。